組立・施工説明書 アルミニウム合金製 サイクルポート

このたびは、本商品をご採用いただき、誠にありがとうございます。

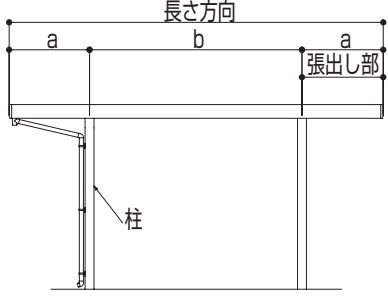
組立・施工の前に…
商品を正しく組立・施工していただくために、説明書の内容をご確認ください。
商品の組立・施工については必ず本説明書に従ってください。
組立・施工の後で…
取扱説明書をお施主様にお渡しください。

本説明書は専門知識を有する業者様向けの内容となっております。
誤った方法で作業を行うと、不具合につながるおそれがあります。
作業には危険が伴いますので、専門知識を有する業者様が行ってください。

注 意

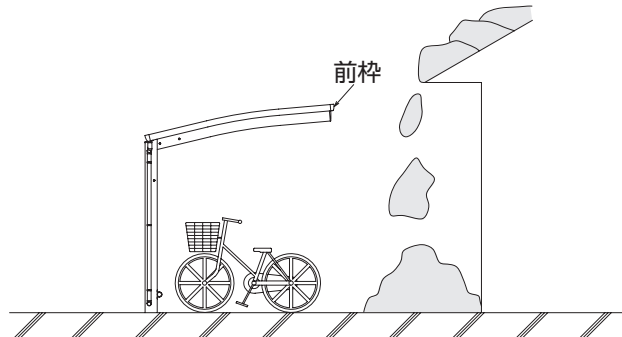
- このサイクルポートは積雪～ 20cm 地域用 {積載荷重 600N/m^2（61.2kgf/m^2)} です。
  積雪量が 20cm を超える前に雪おろしをすることを施主様に確認してください。商品が破損するおそれがあります。
  ※雪おろしの目安は、積雪 1cm 当たり 30N/m^2 で計算しています。
  湿った雪の場合等は、1cm 当たりの重さがさらに大きくなる場合がありますので、早めに雪おろしを行ってください。
- サイクルポートを傾斜地に設置する場合は、低い場所の柱の埋め込み深さを確保してください。
  商品に倒壊のおそれがあります。
- 屋根ふき材の取付けは、基礎コンクリートが確実に固まってから行ってください。
  基礎コンクリートは、４～７日の養生期間が必要です。
- 脚立を使用する際は、天板の上に乗ること、またがること、座ることが禁止されています。
  脚立は、脚立メーカー発行の取扱説明書を必ずお読みの上、ご使用ください。

注 意

長さ方向張出し部のみ切詰めると、サイクルポート屋根部の荷重バランスが崩れ、積雪時や暴風時に商品が破損するおそれがあります。
切詰めを行う際は、おおむね規格サイズの長さ比率(a:b:a)になる位置に柱移動を行ってください。

シーリングは必ず実施してください！

- 「**シーリングマーク**」で表示している箇所の**シーリングは必ず行ってください。**
  シーリングがされないと、**漏水の原因**となります。
- ポリカーボネート板へのシーリングは、ひび割れ防止のためと樹脂との接着性が良い脱アルコール形のシーリング材をご使用ください。（別途手配品）

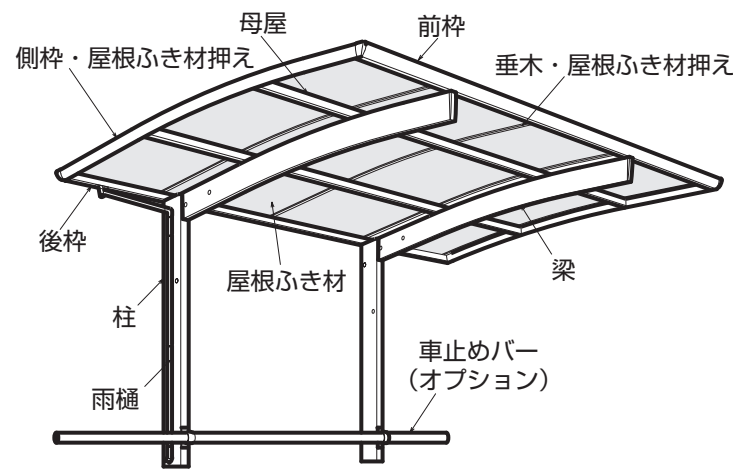
お願い

- 屋根からの落雪が予想される場所では、サイクルポートに直接落雪しないようにご配慮ください。（図参照）
- サイクルポートの屋根が強風であおられるのをさけるために、前枠側を建物にむけて施工してください。（図参照）
- みだりに改造や変更はしないでください。
- 基礎コンクリートには**塩素系の混和剤（急結剤等）や海砂を使用しない**でください。
  柱の腐食の原因となります。
- 屋根面に銀色フィルムを貼らないでください。
  太陽光線の反射により火災のおそれがあります。
- 凍結破損防止のため、基礎部に割栗石、砂利または砕石を敷き、柱に水抜き穴をあけてください。
- 組立ては、所定のねじを使用して最後まで締め付けてください。
  締め付け不良は漏水や性能低下および事故の原因になります。
- ユニットの組替え等により製作する場合は製作範囲を確認して製作してください。
  製作範囲を超えると事故（人損、物損）の原因になります。
- サイクルポートの上に乗ったりはしごをかけないでください。
  サイクルポートの破損だけでなく落下事故の原因になります。

説明図中の部品には、<　　>で梱包先を表示しています。

チェックシート

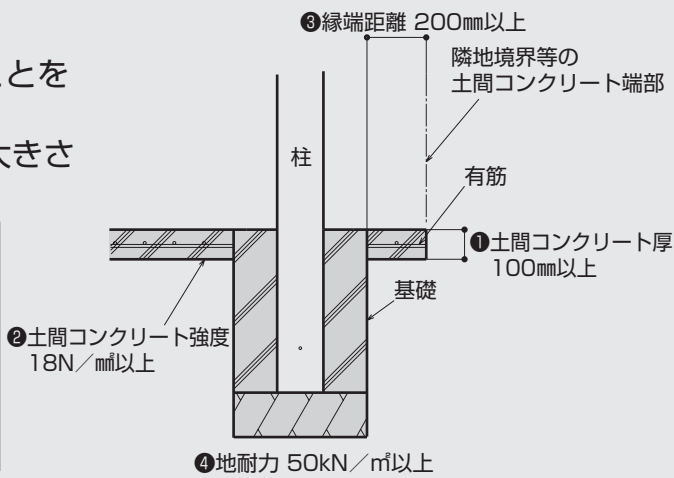
組立･施工時、下記項目の確認をしてください。

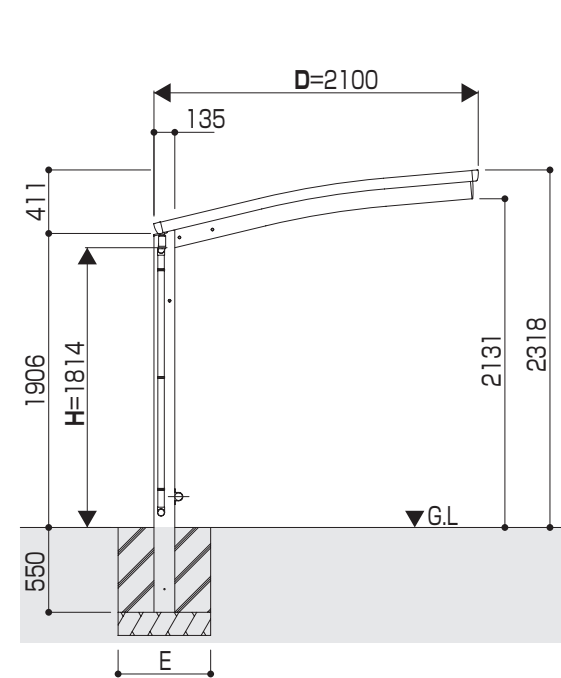
	項　目	チェック欄
❶	基礎寸法	
❷	シーリング	
❸	柱の間隔・垂直・屋根の直角・後枠の水勾配	
❹	側枠・垂木取付ねじの締付け	
❺	柱の水抜き穴	
❻	屋根ふき材ののみ込み	
❼	屋根ふき材押えの押しあて	
❽	屋根ふき材押え取付ねじの締付け	

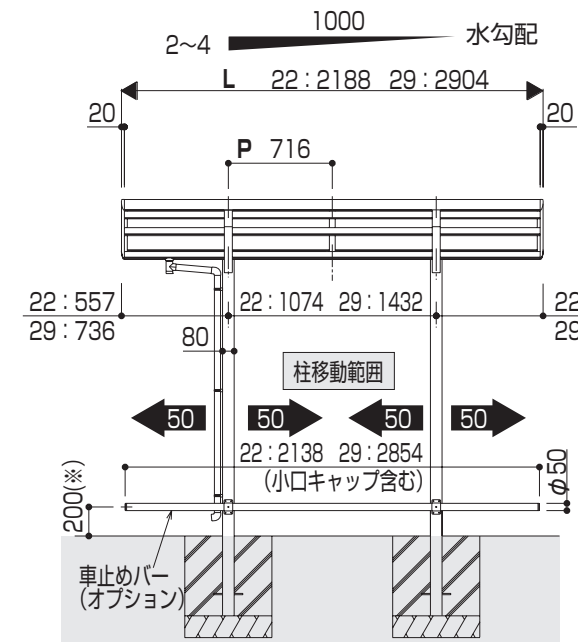
全体構成図

寸法図

土間コンクリート考慮基礎条件

本基礎の場合は、下記各条件を満たしていることを確認してください。
条件を満たしていない場合は、「独立基礎」の大きさにして施工してください。

基礎条件
❶土間コンクリート厚　：100㎜以上、有筋
❷土間コンクリート強度：18N／㎟以上
❸縁端距離　：200㎜以上
❹地耐力　：50KN／㎡以上

お願い

屋根の長さ方向に水勾配 $\frac{2\sim4}{1000}$ mmをつけてください。
雨樋側の柱高さを6～14mm低くすると、$\frac{2\sim4}{1000}$ mmの水勾配になります。
逆勾配は雨漏り・雨溜まりの原因になります。

●土間コンクリート考慮基礎の場合
※採用条件については、**土間コンクリート考慮基礎条件**を参照

本体サイズ	全サイズ
基礎寸法 E×F	410×410

※車止めバー（オプション）は任意の高さに取付可能です。図中は参考寸法です。

●独立基礎の場合

本体サイズ	全サイズ
基礎寸法 E×F	520×520

梱包一覧

■柱ユニット　CCD-(HC)WA18V

	部材	部品
姿図	—	
部材・部品名	柱	雨樋
品番	—	K-34805
個数	2	1（L=2400）

■梁ユニット　CCS-(HC)RB21V

	部材
姿図	—
部材名	梁
品番	—
本数	2

■側枠ユニットCCS-(HC)RC21V

	部材		部品						
姿図	—	—							
部材・部品名	側枠	屋根ふき材押え	パッキン	前枠キャップ	前枠キャップ	後枠キャップ	後枠キャップ	ドレイン	穴隠し
品番	—	—	2K-26949	2K-33396	2K-33397	2K-35471	2K-35472	2K-31200	K-36937
備考		（側枠用）							
個数	2	2	2	1	1	1	1	1	1

■前後枠･母屋ユニット　CCS-(HC)RD2#V

	部材			部品
姿図	—	—	—	
部材・部品名	前枠	後枠	母屋	緩衝材
品番	—	—	—	3K-40609
CCS-(HC)RD22V	1	1	2	14
CCS-(HC)RD29V	1	1	2	16

■垂木ユニット　CCS-(HC)RE2#21V

	部材	
部材名	垂木	屋根ふき材押え
品番	—	—
CCS-(HC)RE2221V	2	2
CCS-(HC)RE2921V	3	3

■部品ユニット　CCS-(HC)RG21BV

姿図							—	—
部品名	柱アンカー	柱カバー	雨樋セット	座金組込六角ボルト（M8×25）	トラスタッピンねじ（φ5×10）	穴塞ぎシール（φ14）	組立・施工説明書	取扱説明書
品番	K-11711	4K-17639	EA-E1	2K-17611	ET-5010	K-40433	—	—
備考				柱･梁取付用	屋根部組立用	柱移動用		
個数	2	2	1	16	81	8	1	1

■ジョイント材ユニット　CCS-(HC)RG21JV

姿図	
部品名	ジョイント材
品番	4K-17636
個数	2

■車止めバー（オプション）　CCY-(HC)RK2#V

	部材	部品	
姿図	—		
部材・部品名	車止めバー	車止め金具	トラスドリルねじ（φ4×13）
品番	—	2K-12438	2K-13422
備考			車止め金具取付用
個数	1	2	10

■屋根ふき材ユニット

ユニット記号	サイズ		数量
	長さ	幅	
CCS-(HC)RF21V-3＊#	2082	706	3
CCS-(HC)RF21V-4＊#	2082	706	4

屋根ふき材の種類により、
屋根ふき材ユニットの末尾の記号が異なります。

屋根材種類	色	記号
一般ポリカ	アースブルー	2A
	トーメイマット	2F
熱線遮断ポリカ	アースブルー/マット仕上げ	3B

施工・組立要領

1.基礎の施工　**寸法図**をご覧ください。

お願い
- 地盤のゆるいところでは、さらに大きくしてください。
- 割栗石、砂利または砕石を敷き均し、突固めてください。

2.柱の建込み・仮固定

ポイント
柱アンカーの脱落防止
例：輪ゴムを柱アンカーにひっかける

柱アンカー
輪ゴム

- 土のう袋、木片等を利用して柱を仮固定してください。
- キズ防止のため、柱を段ボール等で養生してください。

3.梁とジョイント材の組立

ボルト仮締め

柱･梁取付用	〈部品ユニット〉
座金組込六角ボルト(M8×25)	

※**ボルトは屋根組立・寸法確認後、本締めします。**

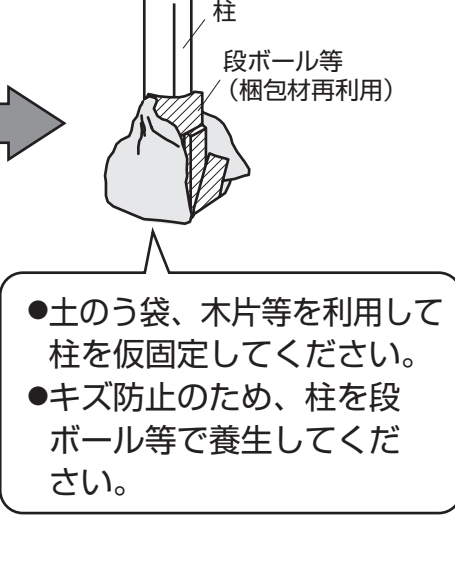
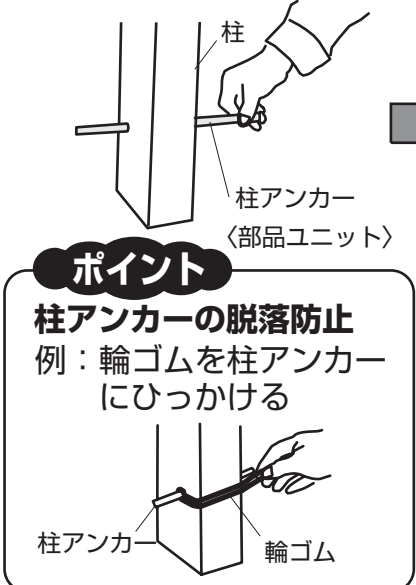
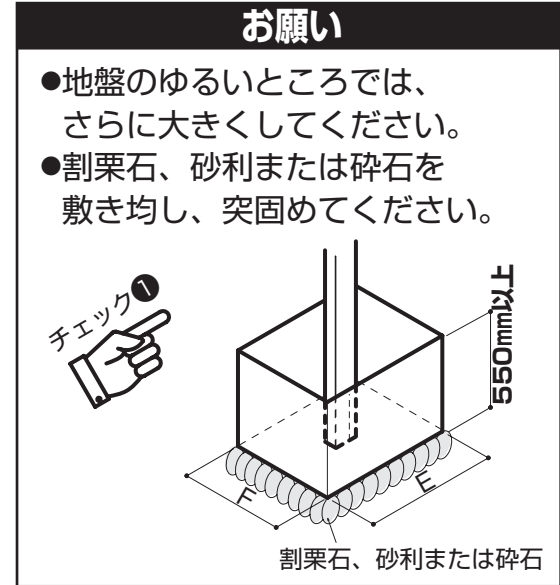
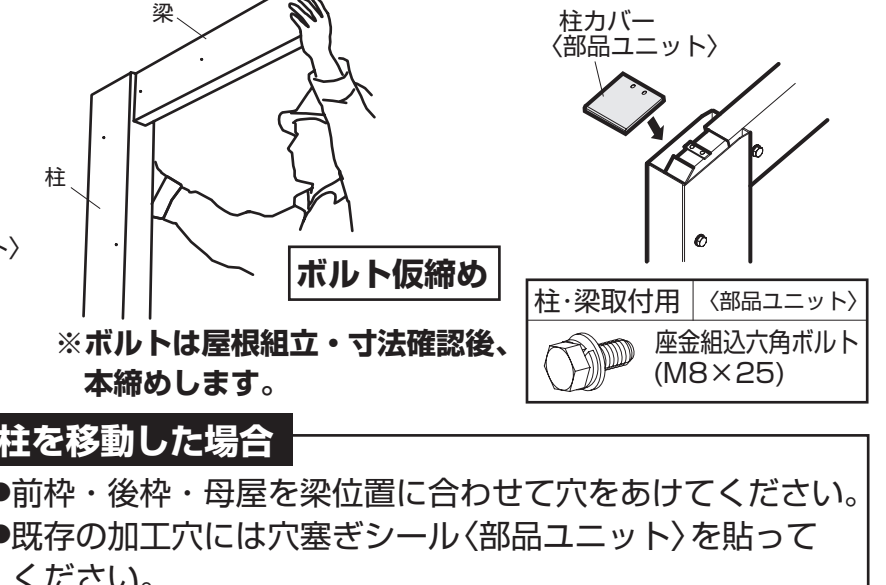
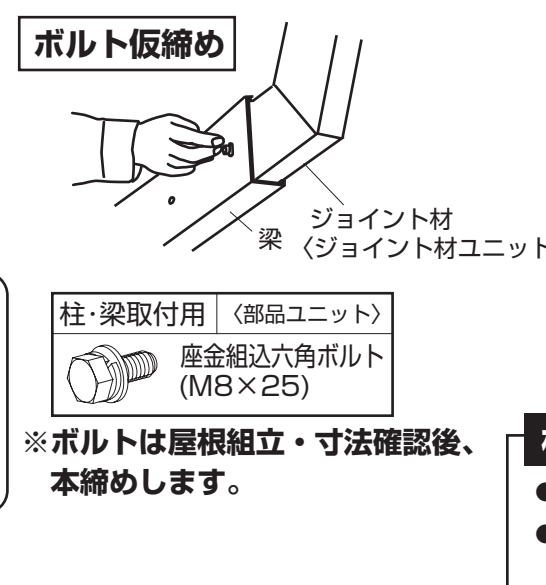
4.梁の取付

ボルト仮締め

※**ボルトは屋根組立・寸法確認後、本締めします。**

柱カバーを取付けてください。

柱･梁取付用	〈部品ユニット〉
座金組込六角ボルト(M8×25)	

柱を移動した場合
- 前枠・後枠・母屋を梁位置に合わせて穴をあけてください。
- 既存の加工穴には穴塞ぎシール〈部品ユニット〉を貼ってください。

施工・組立要領
5.後枠の取付 ※長さ切詰めする場合は、長さ切詰めする場合を参照
❶後枠の水下側に、水抜き穴をあけてください。
水抜き穴（φ5）
❷後枠にパッキンを取付けてください。
ポイント
後枠ヒレにパッキンを突きあててください。
後枠ヒレ
パッキン〈側枠ユニット〉
❸後枠にドレイン・穴隠しを取付けてください。
後枠
穴隠し〈側枠ユニット〉
ドレイン〈側枠ユニット〉
ドレイン・穴隠し取付用〈部品ユニット〉 トラスタッピンねじ（φ5×10）
❹後枠を取付けてください。
梁
後枠
柱
後枠取付用〈部品ユニット〉 トラスタッピンねじ（φ5×10）
シーリング
パッキンのまわりをシーリング
パッキン
後枠
シーリング材
チェック❷
ポイント
ドレインの向きに注意してください。
後枠
ドレイン
シーリング
取付前
ドレイン
穴隠し
シーリング材
取付後 ねじ部をシーリング
ねじ部
後枠
ドレイン・穴隠し
チェック❷
長さ切詰めする場合
切詰め側に左右同様の切欠き加工をしてください。
後枠は加工が異なるため、下記を参照してください。
❶切欠き
後枠
お願い
必ず水抜き穴をあけてください。
雨水が排水されず、雨漏りの原因になります。
❷穴加工
φ4.5
3−φ5（水抜き穴）
φ6
6.前枠の取付
梁
前枠
前枠取付用〈部品ユニット〉 トラスタッピンねじ（φ5×10）
7.寸法確認・調整
❶柱の間隔・垂直
❷梁と後枠・梁と前枠の直角
❸後枠（長さ方向）の水勾配
※雨樋取付側が水下側
チェック❸
後枠
直角
梁
水勾配
雨樋
G.L
柱間隔
ポイント
寸法がでていない場合は、部材を動かして調整してください。
8.母屋の取付
緩衝材を母屋の切欠き端部より約200mmの位置に貼付け、母屋を取付けてください。
緩衝材〈前後枠・母屋ユニット〉
切欠き
母屋
梁
母屋取付用〈部品ユニット〉 トラスタッピンねじ（φ5×10）
ポイント
●緩衝材を母屋のヒレに突き当てる
●母屋の向きを確認して取付ける
緩衝材 ヒレ
後枠側
前枠側
9.側枠・垂木の取付
側枠
前枠
母屋
垂木
側枠・垂木取付用〈部品ユニット〉 トラスタッピンねじ（φ5×10）
ポイント
垂木取付時は、前枠側 ➡ 後枠側 ➡ 母屋部の順でねじ止めすると、穴位置が合わせやすくなります。
前枠・後枠キャップを取付けてください。
後枠キャップ〈側枠ユニット〉
お願い
ねじは確実に締付けてください。
雨漏りの原因になります。
ねじ浮き
斜め取付
チェック❹
キャップ取付用〈部品ユニット〉 トラスタッピンねじ（φ5×10）
シーリング
取付前
〈前枠キャップ〉
〈後枠キャップ〉
シーリング材
取付後
後枠キャップ
側枠
パッキン
後枠
チェック❷
10.本体の仮固定と柱・梁取付ボルトの本締め
❶再度寸法を確認してください。
❷柱・梁取付ボルトを本締めしてください。
チェック❺
11.基礎コンクリートの打込み
φ5水抜き穴（片側）現合加工
約30
コンクリート
割栗石、砂利または砕石
お願い
凍結破損防止のため、基礎部に割栗石、砂利または砕石を敷き、必ず水抜き穴をあけてください。
注意
屋根ふき材の取付けは、基礎コンクリートが確実に固まってから行ってください。
基礎コンクリートは、4〜7日の養生期間が必要です。
12.屋根ふき材・屋根ふき材押えの取付
屋根ふき材の取付
屋根ふき材
差込む
ポイント
後枠の奥にあたるまで押込んでください。
後枠側 差込み順❷
前枠側 差込み順❶
屋根ふき材
チェック❻
お願い
屋根ふき材ののみ込みAが左右同じになるように調整してください。
片方ののみ込みが浅いと、耐荷重性能低下の原因となります。
垂木
屋根ふき材
側枠
チェック❻
屋根ふき材押えの取付
屋根ふき材押え
ポイント
●前枠に押しあてる
あてる
屋根ふき材押え
前枠
チェック❼
●ねじ止めは、前枠側から順に行う
屋根ふき材押え取付用〈部品ユニット〉 トラスタッピンねじ（φ5×10）
お願い
ねじは確実に締付けてください。
雨漏りの原因になります。
ねじ浮き
斜め取付
チェック❽
13.雨樋の取付
取付け位置図
後枠
ドレイン
前枠側
たて樋
柱側面
46 89 135
ブラケット（ベース）取付用〈部品ユニット内の雨樋セット〉 なべドリルねじ（φ4×16）
〈たて樋・呼び樋以外の部品（雨樋セット）は、部品ユニットに入っています。〉
ポイント
斜線部のジョイント材部分に取付ける場合は、柱に下穴φ3.5をあけてください。
ドレイン
呼び樋長さ
ゴミ出しエルボ
呼び樋〈柱ユニット〉
ブラケット（ベース）
たて樋〈柱ユニット〉
ブラケット（アーム）
エルボ
接着剤で順次接着してください。
ポイント
雨樋〈柱ユニット〉を現合で切断し、たて樋、呼び樋にしてください。
たて樋
呼び樋
柱標準位置での呼び樋長さ
呼称 切断寸法
L22 152
L29 331
■車止めバー（オプション）の取付
車止めバーは任意の高さに取付け可能です。
図の寸法は参考寸法です。
柱
車止めバー
ポイント
小口キャップ取付ねじ頭を下向きにしてください。
小口キャップ
柱
ねじ頭
車止め金具取付用〈車止めバーユニット〉 トラスドリルねじ（φ4×13）
車止め金具〈車止めバーユニット〉
200（参考寸法）
シーリング
シーリング材
チェック❷
屋根ふき材押え
前枠
側枠
前枠キャップ
前枠と屋根ふき材押え部は ┌┐字型にシーリングしてください。
屋根ふき材押え
垂木